

2008年9月2日

福田総理の辞任表明を受けての談話

民主党熊本県総支部連合会
代表 参議院議員 松野 信夫

福田康夫首相は昨日1日午後9時半、突然の辞意表明を行った。この退陣は昨年9月26日の就任から1年も経ていないことになるうえ、さる8月2日には内閣改造をしたばかりであることを考えると、改造後わずか1ヶ月での政権投げ出しとなった。

福田総理の緊急記者会見を見ても、何故、辞任するのかの理由も不明瞭で、政権与党の幹部ですらいぶかしがるものであった。

こうした政権放棄は、きわめて無責任であるし、これでは何のための内閣改造であったのか理解できない。一方では臨時国会の召集も決まり、自らは消費者庁設置や緊急経済対策を打ち出し臨時国会に臨む姿勢を示しながら、他方突然の政権放棄では、自らの無能力をさらけ出したと言わざるを得ない。

安倍政権に続いて政権投げ出しであり、自公政権のもとでは政権放棄が止まらない。このように二代続いて任期途中での無責任な政権放棄は、単に安倍氏、福田氏の個人の問題ではなく、自民政権がもはや末期症状を呈していることを示すものである。

自民党内部ではポスト福田を狙って様々な動きがあるようであるが、結局は国民不在の権力闘争でしかない。日本の政治は民主党が目指す政権交代でしか生き返らないことがますます明白になった。

私たちは速やかに解散総選挙を求めて攻勢を強めると共に、今年中にも予想される総選挙では政権交代を目指して県民とともに闘っていく決意である。

以上